

自然エネルギー普及を

鹿児島 市民団体が討論会

九州電力川内(せん
だい)原発の電力に頼
らず、自然エネルギー
の普及を考えようと市
民団体「鹿児島市民エ
ネルギー会議」は7月
27日、鹿児島市で討論
会を開きました。3人
のパネリストとともに
参加者は鹿児島市の自然

エネルギーの可能性を
探り、意見交換しまし
た。

パネリストは、鹿児
島国際大学准教授の八
木正氏、「NPO法人
顕娃(えい)おこそ会」
の斎藤耕太郎氏、「ひ
おき小水力発電推進協
議会」事務局長の及川

斉志氏の3人。

八木氏は、CO₂(二
酸化炭素)を一般家庭
の50%以上削減した自
身のエコハウスを紹介
しながら、鹿児島が全
国4位の自然エネルギー
の宝庫だと強調。風
力や太陽光、地熱など
の活用を提案しまし

た。斎藤氏は、原発はC
O₂が出ないといわれ
るが建設に10年、廃炉
に40年かかるなど、建
設や解体過程でCO₂
が排出されることを指
摘。及川氏は、201
6年からの電力自由化
にふれ、「消費者は安
心安全な電力を見定め
る会社と契約してほし
い。小水力発電など電
力も地産地消を」との
べました。

小水力発電事業継続へ努力

仁比議員 JA広島中央会と懇談

日本共産党の仁比聡
平参院議員は7月28
日、JA広島中央会を
訪問し、小水力発電の
固定価格買い取り制度



懇談する(左から)辻県議、村上県
委員長、仁比参院議員とJAの坂本
専務、土井課長=7月28日、広島市

などについて坂本和博
専務理事らと懇談しま

した。党広島県委員会
の村上昭二委員長、辻

恒雄県議らが同席しま
した。

JA広島中央会など
を中心に中国小水力発
電協会が運用している
事業用小水力発電事業
は、急峻(きゅうしゅ
ん)な地形を利用して
いるため水害にあうこ
とが多く、老朽化した
水路や発電施設の改修
工事がたびたび必要に
なっており、1970年に
90カ所あった施設が2
012年には53カ所ま
で縮小しています。な
かでも、出力が100
キロワット未満の発電所は、
固定価格買い取り制度
による単価34円でも投
下資金の回収が厳しい
ため、60年間続けてき
た事業の継続が危ぶま

れています。
同協会からの要請を
受けて仁比議員が政府
に、小水力発電事業が
継続、新規参入できる
よう固定価格買い取り
制度の検討を求めた

「中小水力発電の普及
と拡大に関する質問主
意書」を提出。その答
弁書を持参して仁比議
員が説明しました。
JA広島中央会の土
井崇司小水力担当課長
は現状や取り組みを報
告し「100キロワット
未満では単価が53円は必
要」と話し、仁比議員
は「既設のもの活用の
は地域の再生に役立
つ。継続できるように努
力したい」と応じまし
た。